

オードリー・タン大臣と対談しました (2021/11/19)

テーマ：防災ITの推進

会場：ハイブリッド会議（第15回デザインフェスティバル2021）

URL：<https://www.forum8.co.jp/fair/df/day3.html>

（株）FORUM8が主催する、第15回デザインフェスティバル2021での特別講演として台湾デジタル担当大臣オードリー・タン氏の参加された「Digital Social Innovation～DX時代のインフラ強靱化、防災ITの推進～」で、当研究所所長の今村文彦教授（津波工学研究分野）が対談を行いました。他に、グリニッジ大学教授エドウィン・R・ガリア氏の参加があり、司会は建設ITジャーナリスト家入龍太氏が務めました。特別講演では、B3W「より良い世界再建」（B3W, Build Back Better World）構想の推進におけるIT、DXの貢献等について、質疑応答形式の対談が行われました。

オードリー・タン氏は、台湾の国家発展委員会のオープンデータ委員会委員および国民基本教育のカリキュラム委員を務め、台湾の歴史上初の試みであるネット規則制定プロジェクトを主導しています。2016年10月に台湾の蔡英文政権において35歳の若さで行政院に入閣し、無任所閣僚の政務委員（デジタル担当）を務めています。最近では、コロナ感染拡大防止を主導し、世界的にも注目されました。

エドウィン・R・ガリア教授は、英国グリニッジ大学火災安全エンジニアリンググループ（FSEG）を創設し、最新の高精度避難モデリングソフト EXODUS を開発しており、特に、避難（体制）解析の世界的権威として論文、著書があり、さらに、BBC や ABC などメディアでの発表・放送が多数あります。

今回のテーマは、東日本大震災での津波等災害への対応、社会の Build Back Better, 様々な災害に対する災害避難、災害にかかわるネットコミュニティや若者の参加など、多岐に渡りました。まず、今村所長より東日本大震災での地震・津波およびその被害についての紹介がありました。当時、津波警報が出ましたが、第一報は過少評価であり、観測や解析が進むにつれて精度が高まった過程があり、そこでは情報のトレードオフがありそれに応じた対応計画が必要であることが述べられました。それに応えて、オードリー氏からは、台湾においても1999年9月21日の大地震や2009年8月の台風水害など大規模な被災の際に様々な対応が必要であり、そこでは信頼できる情報が重要であったことが述べられました。ガリア氏からは、シミュレーションなどの信頼性を高める必要があり、エビデンスに基づき現実に適したパラメータの設定が重要で、かつその精度や信頼性についてコミュニケーションを通じて市民に理解をしてもらう必要があることが紹介されました。さらに、防災については、情報の信頼性と適切な対応に結びつくITが必要であることなどが話し合われ、約1時間の対談が終了しました。



ハイブリッド会議の様子

（左上；今村所長，右上；エドウィン・R・ガリア教授，右下；オードリー・タン大臣）

文責：今村文彦（津波工学研究分野）